



桜だより

伊丹市立桜台小学校
校長 日外 亮

9月12日（木）

放課後、急に大雨が降り、数分後には運動場一面が水たまりになっていました。ゴロゴロと近くで雷鳴が轟き渡る中、突然、「ビシッ!」。眩しい光と大きな音とともに、職員室が一瞬で暗くなりました。17時20分、落雷による停電でした。

はじめは教職員で復旧にあたろうとしましたが、家庭とは異なり、学校では多くの電力を扱うため、ブレーカーを元に戻せば復旧するという単純なものではないとのことで、工事業者さんに来てもらい対応することとなりました。そして、ここからが大変でした。

まず、暗い…。先生方は、充電されたパソコンで作業をしたり、一時的にスマートフォンの明かりで丸付けをしたりするなど工夫されていました。困難な状況下においても、子どものことを思って仕事をされる先生方の姿に教師魂を感じ、心を打たれました。



次に、暑い…。時間が経過するにつれて、職員室の冷気も無くなり、徐々に蒸し暑くなっていきました。

校舎周辺の安全点検を行っていると、幸いなことに異常は確認できませんでした。しかし、んっ?何かおかしい…。さくら台こども園や近隣のお家では、電気が付いているではありませんか! どうやら桜台小学校だけが停電しているようでした。(後に、一部のご家庭でも停電があったと聞いております。大変でしたね。お疲れが出ませんように。)

暗闇の職員室で、懐中電灯を天井に向けて置き、ぼんやりとした明かりの下で復旧作業を待っていると、阪神淡路大震災の初日の夜を思い出しました。暑くて窓を開けていたので、耳を澄ますと普段気付くことがない虫の鳴き声が聞こえ、少しだけ秋の訪れを感じました。

このまま復旧しなければ、明日の学校は電気も付かず、クーラーも効かず。そのような状況の中、通常通り授業ができるのか、暑過ぎて多くの児童が体調不良になるのではないかと不安がよぎりました。子どもたちの安全面を考慮すると、明日は臨時休校にすべき。ご家庭への連絡があるため、判断の区切りを何時にしようかと考えていたところ、パッと目の前が明るくなりました。20時18分、停電は復旧しました。これまで何事もなかったかのように、いつもの職員室に戻りました。たかが3時間の停電でしたが、とても長い時間に思えました。改めて電気のありがたさ、日頃の備えの大切さを感じました。

8月、「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の発表により、防災対応が注目されました。自然災害時の対応について、今一度、ご家族で話し合っていたきたいです。

9月13日は、おかげさまで、学校では大きな問題なく、通常通り授業を実施することができました。何より、子どもたちの身に落雷による影響がなくて、本当に良かったです。